Vol.250 環境教育とサステナブルな学校制服に関する調査

近年、持続可能な社会の実現に向けて、学校での環境教育（エコ学習・ＳＤＧｓ）の重要性が高まっています。そのような中で、子どもたちが毎日着用している学校制服は、丈夫で長く着られることに加え、リユースやリサイクル、成長に合わせたサイズ調整など、環境への配慮（エコ）と家庭の経済的負担の軽減（経済性）を両立できる身近な存在として注目されています。では、サステナブルな学校制服について、学校はどのように考えているのでしょうか？今回は、全国の小学・中学・高校の教員１，８００人を対象に、環境教育の実施状況や学校制服を活用したエコへの取り組みについて調査しました。

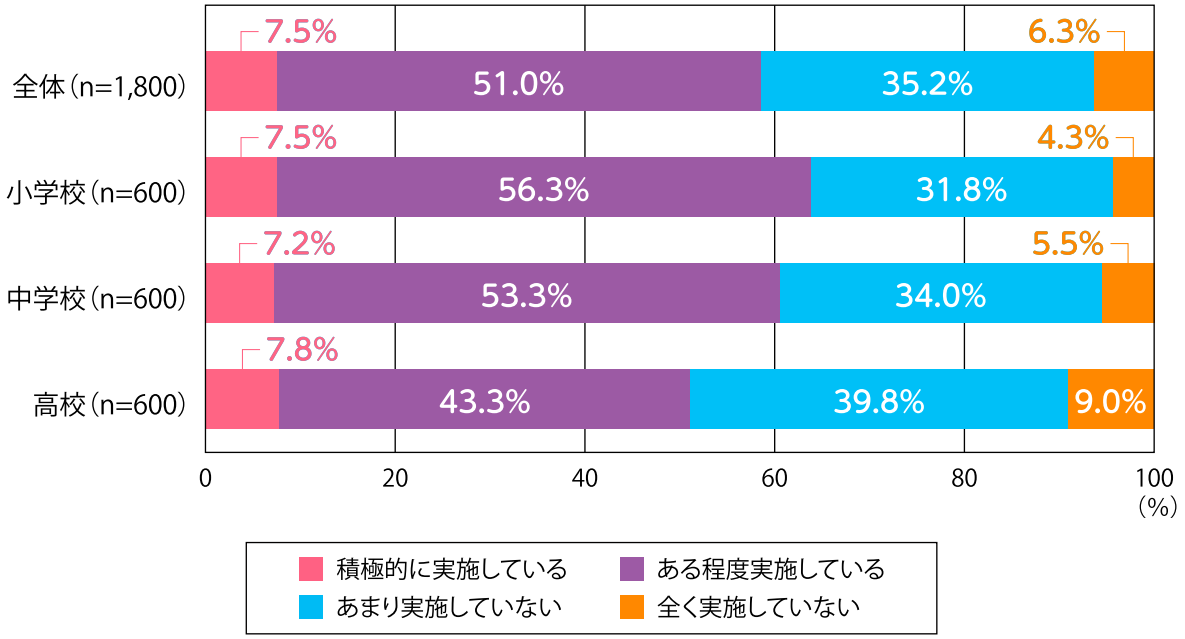


調 査 概 要

調査対象：全国の小学・中学・高校の教員 １，８００人
調査方法：インターネットリサーチ
実施時期：２０２６年６月

Q1. 学校での環境教育の実施状況

学校で環境教育をどの程度実施しているか聞いたところ、全体では「積極的に実施している」（７．５％）と「ある程度実施している」（５１．０％）を合わせて５８．５％が実施していると回答しました。一方で、「あまり実施していない」（３５．２％）と「全く実施していない」（６．３％）は計４１．５％でした。校種別では、「積極的に実施している」と「ある程度実施している」を合わせた割合は、小学校が６３．８％、中学校が６０．５％、高校が５１．１％となり、勤務先の学校で環境教育を実施していると回答した教員の割合は、小学校と中学校で６割を超えていました。

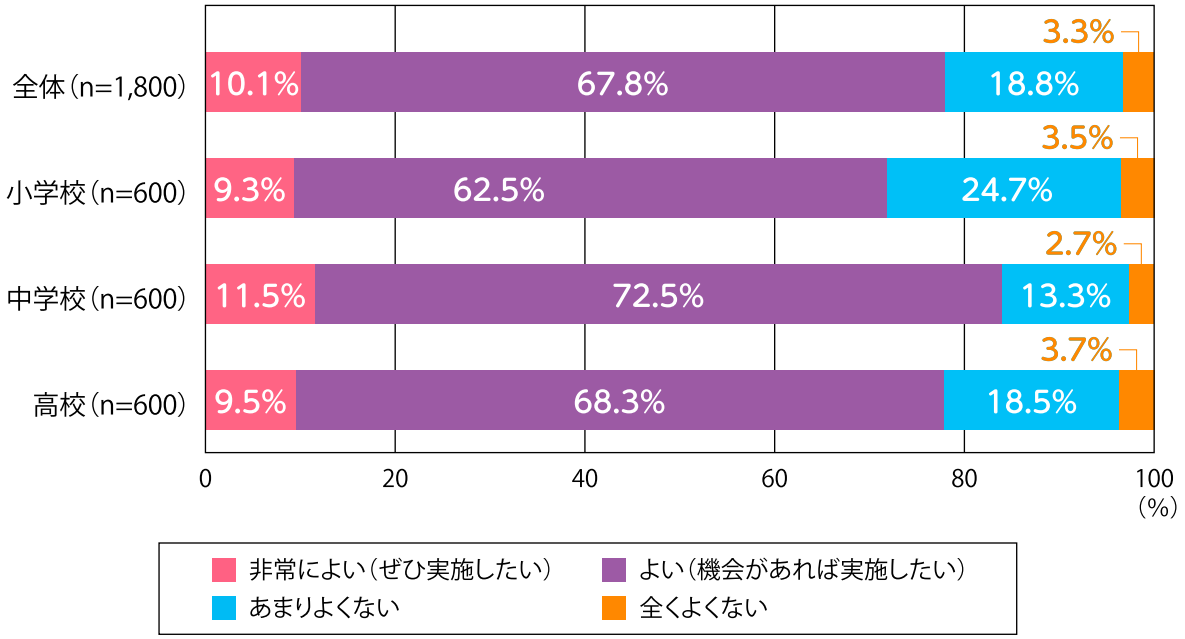


※グラフの数字は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

【図１】　あなたがお勤めの学校では、環境教育（エコ学習・ＳＤＧｓ）をどの程度実施していますか。（単数回答）

Q 2. 学校制服を題材にした環境教育の意向

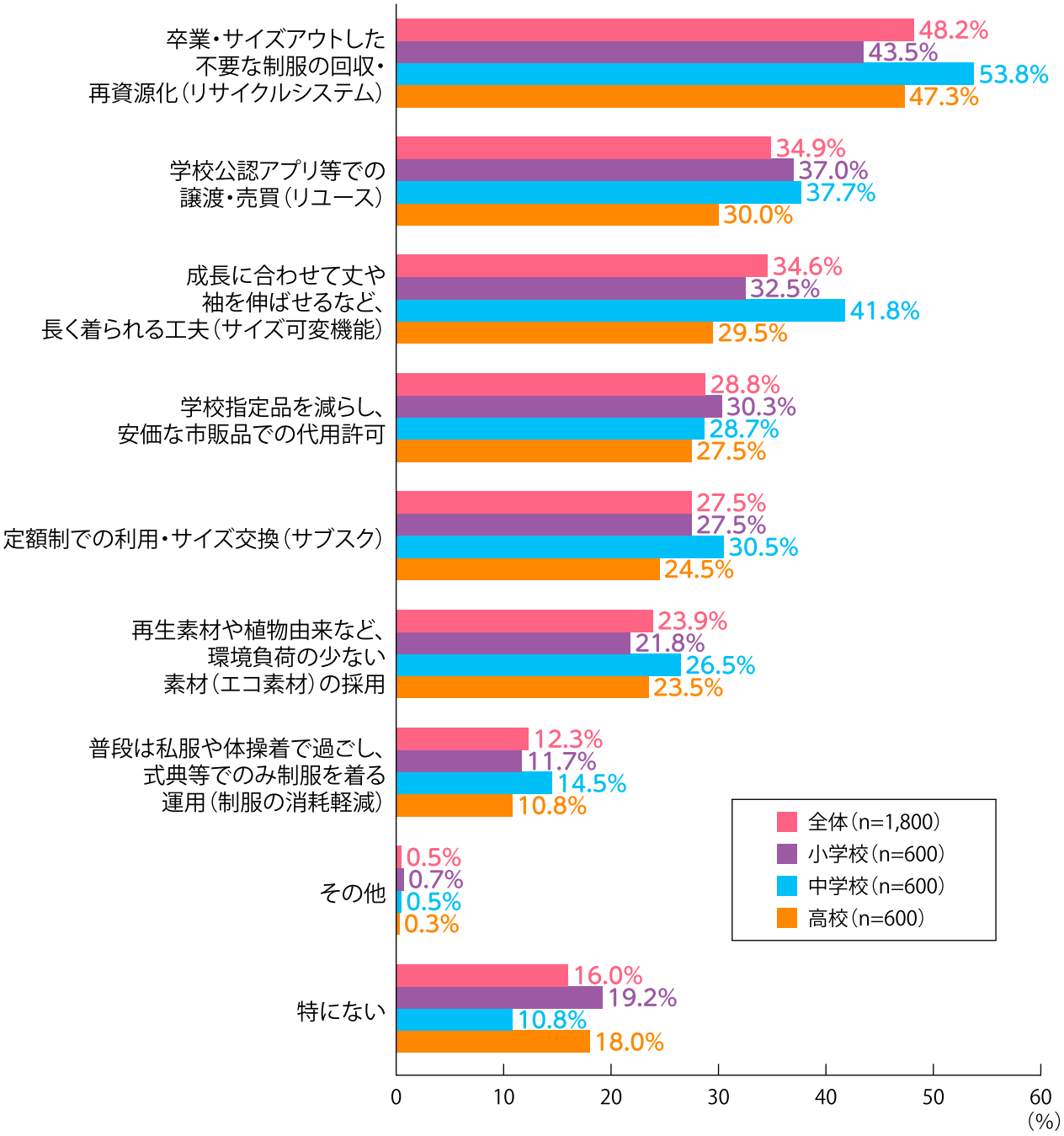
学校制服を題材にした環境教育については、全体では「非常によい（ぜひ実施したい）」（１０．１％）と「よい（機会があれば実施したい）」（６７．８％）を合わせて教員の７７．９％が「よい」と回答しました。校種別では、「非常によい（ぜひ実施したい）」と「よい（機会があれば実施したい）」を合わせた割合は、中学校が８４．０％と最も高く、次いで高校が７７．８％、小学校が７１．８％となりました。特に「非常によい（ぜひ実施したい）」（小学校９．３％、中学校１１．５％、高校９．５％）も中学校が最も高く、身近な学校制服を題材にした環境教育に前向きな回答が多くみられました。



【図2】 学校制服を題材にした、環境教育（エコ学習・ＳＤＧｓ）についてどう思いますか。（単数回答）

Q 3. 経済的かつ環境に優しい学校制服への意向

家庭の経済的負担を減らし、環境にも優しい「未来の学校制服の仕組み」としてよいと思うものは、全体では「卒業・サイズアウトした不要な制服の回収・再資源化（リサイクルシステム）」（４８．２％）が最も多く、次に「学校公認アプリ等での譲渡・売買（リユース）」（３４．９％）と「成長に合わせて丈や袖を伸ばせるなど、長く着られる工夫（サイズ可変機能）」（３４．６％）が続きました。校種別では、中学校で「卒業・サイズアウトした不要な制服の回収・再資源化（リサイクルシステム）」（５３．８％）や「成長に合わせて丈や袖を伸ばせるなど、長く着られる工夫（サイズ可変機能）」（４１．８％）が他の校種より高く、成長期にあたる中学生の体格変化に対応し、経済的負担の軽減と環境配慮を両立できる仕組みへの関心が目立ちました。



【図３】　家庭の経済的負担を減らし、環境にも優しい「未来の学校制服の仕組み」として、よいと思うものはどれですか。（複数回答）

まとめ

世界的な原材料費やエネルギー価格の高騰に加え、異常気象や資源の枯渇といった環境問題の影響も重なり、物価高による家庭の経済的負担が増しています。こうした社会状況のもと、学校の環境教育では、児童・生徒が持続可能な社会を身近に感じ、実践につなげられる学びをどのように展開するかが課題となっています。

今回、全国の小学・中学・高校の教員１，８００人を対象に調査したところ、学校での環境教育（エコ学習・ＳＤＧｓ）の実施状況は、「積極的に実施している」と「ある程度実施している」を合わせて全体の５８．５％が実施していると回答しました。校種別では、「積極的に実施している」と「ある程度実施している」を合わせた割合は、小学校が６３．８％、中学校が６０．５％、高校が５１．１％となり、小学・中学校を中心に６割以上の学校で環境教育が実践されている結果となりました。続いて、学校制服を題材にした環境教育については、「非常によい（ぜひ実施したい）」と「よい（機会があれば実施したい）」を合わせると、肯定的な回答は全体の７７．９％でした。特に中学校では８４．０％にのぼり、身近な学校制服を題材にした環境教育への意向の高さがうかがえます。さらに、家庭の経済的負担を減らし、環境にも優しい「未来の学校制服の仕組み」としてよいと思うものは、１位「卒業・サイズアウトした不要な制服の回収・再資源化（リサイクルシステム）」（４８．２％）、２位「学校公認アプリ等での譲渡・売買（リユース）」（３４．９％）、３位「成長に合わせて丈や袖を伸ばせるなど、長く着られる工夫（サイズ可変機能）」（３４．６％）でした。中学校では「卒業・サイズアウトした不要な制服の回収・再資源化（リサイクルシステム）」（５３．８％）は半数を超えて、「成長に合わせて丈や袖を伸ばせるなど、長く着られる工夫（サイズ可変機能）」（４１．８％）への支持が特に高い結果となりました。

学校制服には、成長に合わせてサイズを調整して長く着たり、次の人に譲ったり、着なくなったものを回収して資源として活用したりと、身近に実践できる取り組みがいくつもあります。そして、環境に優しい選択が家庭の経済的負担の軽減にもつながると学ぶことは、子どもたちが日々の暮らしでできる行動を考えるきっかけになります。身近な一着を教材とした学びを通じて、学校制服を長く大切に使う取り組みが学校や家庭に広がっていくことが期待されます。

毎月最終 火 曜日 更新

カンコーホームルーム ～学生を読み解くデータ集～

カンコーホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、
多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。
ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

カンコーホームルーム 検索

http://kanko-gakuseifuku.co.jp